

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 11 日現在

機関番号：32620

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2012～2014

課題番号：24792591

研究課題名(和文)市町村保健師の精神的健康と意欲を高める職場の検討 - 社会とのつながりに着目して -

研究課題名(英文)Workplaces where Mental Health and Motivation of Community Public Health Nurses Improve -Focusing on a Link to the Society-

研究代表者

齋藤 尚子(SAITO, Naoko)

順天堂大学・医療看護学部・助教

研究者番号：90621730

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、市町村保健師の精神的健康度を良好にし、かつ仕事意欲を高める要因について、「社会とのつながり」の観点から明らかにすることを目的とした。「社会とのつながり」とは「自分の仕事は社会的に意義がある」と感じている状態である。市町村保健師は、住民への直接的支援や住民からの肯定的な評価といった住民への関わりに付随する場面で「社会とのつながり」を感じており、この状態であることが仕事意欲と関連していた。これらより、業務を整理し活動時間を確保することや、保健活動の可視化、保健活動について共有できる場の設定が必要である。

研究成果の概要(英文)：The aim of the study is to identify the factors that improve mental health and raise work motivation of public health nurses, from the viewpoint of a “link to the society.” The “link to the society” here refers to a mental state in which an individual feels that “his/her work is meaningful in the society.” The study found that the nurses feel this “link to the society” in situations involving relationship with local residents such as direct support for them and positive feedback from them, and this mental state was found to be related to work motivation. From these findings, it is necessary to secure more time for frontline activities by better organization of works, to visualize the work, and to create opportunities to share their experiences of the activities.

研究分野：公衆衛生看護学

キーワード：市町村保健師 職場環境 精神的健康 仕事意欲 社会とのつながり 健康職場

1. 研究開始当初の背景

医療費の高騰や高齢化、少子化等を背景に保健師の活動が注目されている。特に市町村では介護予防や特定保健指導が開始される等、活動の場は広がっている。しかし、保健師自身に目を向けると、全国の保健所保健師に行った調査では半数以上の保健師がバーンアウトに陥っている(今井ら、2006)。メンタルヘルスの悪化は保健活動の低下にもつながるため、改善が必要である。

保健師のメンタルヘルスには過剰な仕事量やサポート体制の不備といった職場環境が影響している(今井ら、2006)。しかし、自治体財政が厳しい現状では、負荷の軽減といった単に労働者に悪影響を与える要因を取り除く視点には限界があり、予防的視点から健康を高める方策を検討する必要がある。

近年、他分野では職場のメンタルヘルス対策として職場環境に着目した取組みが行われている。従来は労働者にとっての悪影響を取り除く労働者個人に焦点をあてた対策が行われてきたが、依然としてメンタルヘルスの悪化は続いている。このため、個人のみでなく組織そのものを変える必要があるとされている。代表的なものとして、看護師のマグネットホスピタルや中央労働災害防止協会の快適職場調査等がある。

また、NIOSH は「健康職場モデル」を提唱している(Sauter SL,1996)。これは、労働者が健康であり、意欲的に働くことができる組織では、組織の生産性や業績にもよい影響を与えるという考え方である。労働者だけでなく組織にもメリットがあることで、組織としてもメンタルヘルス対策を受け入れやすく積極的な取組みにつながることを期待できる。健康職場モデルに基づく研究は、国内でも情報サービス産業従事者等を対象に行われている。

このように、他分野では労働者の健康と組織の生産性・業績という労働者と組織双方にメリットをもたらす職場環境要因が明らかにされつつある。しかし、保健師の職場環境に関する研究はほとんどない。保健師は看護師同様に医療職であるが、活動形態や業務内容など異なる点は多く、他職種との違いは大きい。

そこで、研究代表者は行政保健師に占める人数が多く職場環境が大きく変化しているとされる市町村保健師に着目し、A 県内の市町村保健師を対象に、健康職場モデルに基づく調査を行った。公務員である市町村保健師には生産性・業績に相当する概念がないことから、生産性・業績の前段階にあたる仕事意欲に着目することとし、精神的健康と仕事意欲の良好さと要因を明らかにした。調査の結果、精神的健康、仕事意欲には経験年数等の個人要因、職場規模、業務負担等よりも、職場環境が大きく影響しており、職場環境を改善することの重要性が示唆された。その中でも特に、「自分の仕事は社会的に意義がある」

つまり「社会とのつながり」を感じられる職場環境であることが精神的健康と仕事意欲の双方に影響していたことから、「社会とのつながり」を感じられる職場づくりが必要と言える。

しかし、調査時にたずねた「社会とのつながり」を測定する項目は保健師の特性を加味した項目ではなく、市町村保健師が「社会とのつながり」を感じる具体的状況は明らかとなっていない。

2. 研究の目的

本研究では、以下の2点を目的とした。

(1)市町村保健師が「社会とのつながり」を感じる具体的状況を明らかにする。

(2)「社会とのつながり」の現状を明らかにする。

(3)上記で明らかとなった「社会とのつながり」を感じる状況と精神的健康および仕事意欲との関連を検討する。

これにより、市町村保健師が健康で意欲的に仕事ができる「社会とのつながり」に着目した方策の検討が可能となる。市町村保健師が健康で意欲的に仕事ができることは、住民への保健活動の質向上にもつながると考えられる。

3. 研究の方法

(1)「社会とのつながり」を感じる具体的状況案の検討

はじめに文献検討により「社会とのつながり」を感じる具体的状況案を作成し、その結果をもとに市町村保健師へインタビュー調査を行い、項目の追加・修正を行った。

文献検討は、2012年1月～2013年9月に発行された保健師向け雑誌(「保健師ジャーナル」「地域保健」)のうち、保健師資格を持つ者が執筆した記事や行政保健師へのインタビュー記事を分析対象とした。分析対象の記事を精読し、行政保健師が「社会とのつながり」、つまり保健活動を実践する中で貢献していると感じたり、承認されたと感じたりするに至った具体的状況についての記述を原文の意味を損なわないように抽出し、要約をした後、類似する意味内容ごとに分類整理した。

文献検討の結果は、市町村保健師2名に項目の妥当性について確認を依頼し、追加・修正を行った。

(2)市町村保健師への調査

「社会とのつながり」を感じる状況の現状および精神的健康・仕事意欲との関連を明らかにするために、市町村保健師を対象に調査を実施した。

調査対象

全国の市町村保健師を対象とした。なお、職場体制の違いが大きいと考えられる政令指定都市、中核市、特例市は除外した。

全国市町村要覧を基に系統抽出法により326市町村を抽出した。対象となった市町村

の保健師統括部署あてに文書で調査依頼を行い、返信はがきにて調査協力の可否を確認した。最終的に調査協力が可能であるとの返答があった 108 市町村 1266 名を本調査の対象とした。

調査方法

郵送法による自記式質問紙調査とした。調査票は各施設の担当者一括で郵送し、担当者を通じて対象者へ配布した。調査票配布から回収までには2週間程度の期間を設け、返送は返信用封筒を用いて対象者より直接、研究者に郵送するよう依頼した。

調査期間

調査は平成 26 年 12 月から平成 27 年 1 月に実施した。

調査内容

〔個人属性〕

性別、年齢、婚姻の有無、子どもの有無、介護の有無、学歴、経験年数、職位等

〔職場・勤務状況〕

自治体種別、市町村人口、所属部署、部署内の保健師数、保健師管理職の有無、通勤時間、時間外勤務時間等

〔「社会とのつながり」を感じる状況〕

上記(1)において検討した「社会とのつながり」を感じる具体的状況 17 項目を用いた。回答は「あてはまらない-あてはまる」の 5 件法とした。得点が高いほど「社会とのつながり」を感じていることを示す。

〔精神的健康〕

気分障害や不安障害といった精神疾患をスクリーニングするための尺度である K6 を用いた。これは 6 項目から構成され、得点の範囲は 0-24 点である。得点が高いほど精神的健康が不良であることを示す。

〔仕事意欲〕

ユトレヒト・ワーク・エンゲイジメント尺度日本語版 UWES-J を用いた。これは 9 項目から構成され、得点の範囲は 0-6 点である。得点が高いほど仕事に誇りを感じ、熱心に取り組む、仕事から活力を得て生き生きしている状態を示す。

なお、仕事に積極的に取り組んでいる状態を示す「活力」、仕事に誇りややりがいを感じている状態を示す「熱意」、仕事に夢中になり熱中して取り組んでいる状態を示す「没頭」の 3 つの下位尺度に分けられる。いずれも得点の範囲は 0-6 点である。

〔「社会とのつながり」を感じる状況についての自由記載〕

あなたが「自分の仕事が社会とつながり意義がある、社会の役に立っている」と感じるのどのような時ですか、という質問を設定し、自由記載形式で回答を求めた。

分析方法

基本統計量を算出し分布を確認後、「社会とのつながり」を感じる状況、精神的健康、仕事意欲は得点を算出した。

「社会とのつながり」を感じる状況の項目は、天井効果、床効果を確認後、固有値 1.0、

因子負荷量 0.4 を基準とする因子分析（一般化された最小 2 乗、直接オプティミズ回帰）を実施し、因子毎に得点を算出した（5 点満点）。最終的に 3 因子 17 項目となった。因子 1 は対象者と一緒に活動したり、対象者から感謝の言葉等の肯定的評価を得たり、抱えていた問題がよい方向へ向かうといった対象への直接的支援やそこから付随する状況が挙げられており【直接的関わりの中で認識する活動意義】とした。因子 2 は、保健事業への客観的評価やデータ等の現状に応じた保健活動などの状況であり【客観的指標・根拠に基づく活動実践】とした。因子 3 は、同僚が自分の仕事を気にかけてくれることや、保健師同士で保健活動について話す機会があるといった保健師活動が尊重された状況であることから、【保健師活動が尊重される職場風土】と命名した。

精神的健康、仕事意欲に関連する「社会とのつながり」を感じる状況を明らかにするために、個人属性、職場・勤務状況、社会とのつながり」を独立変数、精神的健康と仕事意欲を従属変数とするロジスティック回帰分析（ステップワイズ法）を行った。精神的健康はカットオフポイント、仕事意欲は中央値で 2 群に分類した。

上記の統計的分析には SPSS Statistics 19.0 を使用し、有意水準は 5% とした。

「社会とのつながり」を感じる状況の自由記載については、意味内容を汲み取りながら一文一意味となるよう抽出し、これをコードとした。コードは類似した意味内容ごとに分類整理した。

倫理的配慮

調査にあたり、責任者と対象者へは研究的・方法、個人情報保護、自由意思による協力、匿名性保持、研究成果公表について文書で説明した。責任者には協力の可否についての返信、対象者には調査票返送をもって調査への同意を得たものとした。調査協力について強制力が働かないよう、調査票の回収は返信用封筒を用いて個人の意思により提出できるように配慮した。なお、本研究は研究代表者所属機関の倫理審査委員会の承認を受けて実施した。

4. 研究成果

(1) 「社会とのつながり」を感じる具体的状況案の検討

文献検討の結果、行政保健師が「社会とのつながり」を感じる状況は、大きく 3 つに分けられた。【保健活動の効果を感じる】は、保健師の支援に対する住民からの反応のみでなく、保健活動の実施により削減される医療費の算出や自治体ごとの健康関連指標の比較等、客観的データに基づく評価についても含まれていた。【住民や地域の実態にあった活動ができる】は、地区活動からの気づきや住民を交えた計画策定等を通して、住民に必要なと感じる活動ができていることであ

った。【周囲から理解されている】には、関連職種や住民からの理解だけでなく、同じ立場にいる保健師からの理解も重要であった。

文献検討に、市町村保健師のインタビュー調査の結果を反映し、最終的に「社会とのつながり」を感じる状況として 17 項目の質問紙を作成した。

(2)市町村保健師への調査

回収状況

763 部回収し(回収率 60.27%)、704 部を有効回答(有効回答率 55.6%)とした。

個人特性

女性が 98.6%を占め、平均年齢は 41.25 ± 9.67 歳、既婚者が 73.7%、中学生以下の子どもがいる者が 43.3%、介護している者が 6.4%であった。学歴は専門学校・短期大学専攻科が 71.7%を占め、平均保健師経験は 16.85 ± 10.34 年、職位はスタッフ 63.0%、係長以上 37.0%であった。

職場・勤務状況

自治体種別は市 73.9%、町村 26.2%、市町村人口は 1 万人以上 5 万人未満が 37.6%と最も多く、次いで 5 万人以上 10 万人未満が 30.8%であった。所属部署は保健関連部門が 72.6%、部署内の保健師数は 8.94 ± 8.30 であった。70.9%の者は部署内に保健師管理職がいると回答していた。通勤時間(片道)は 21.89 ± 15.19 分、直近 1 か月間の時間外勤務時間は 18.17 ± 21.14 時間であった。

「社会とのつながり」を感じる状況

得点が高い順に【保健師活動が尊重される職場風土】3.83、【直接的関わりにおける活動意義の認識】3.73、【客観的指標・根拠に基づく活動実践】3.44 であった。

精神的健康

K6 の平均得点は 5.24 ± 4.75 であった。20 歳以上の地域一般住民を対象に行われた調査の平均得点は 3.5 ± 38 であり、これと比較すると高い。また、5 点以上であれば気分障害や不安障害のリスクが高いとされており、本調査では 341 名(48.4%)が 5 点以上であった。

仕事意欲

UWES-J は、「活力」2.98 ± 1.16、「熱意」3.49 ± 1.12、「没頭」2.81 ± 1.23 であり、9 項目全体の平均得点は 3.09 ± 1.07 であった。いずれも日本人平均値より高値を示しており、市町村保健師の仕事意欲は高い状態である。

精神的健康、仕事意欲に関連する「社会とのつながり」を感じる状況

ロジスティック回帰分析の結果、精神的健康には時間外勤務時間(OR=1.01)、【保健師活動が尊重される職場風土】(OR=0.71)が関連していた。仕事意欲には年齢(OR=1.04)、【直接的関わりにおける活動意義の認識】(OR=2.94)、【保健師活動が尊重される職場風土】(OR=1.38)が関連していた。

「社会とのつながり」を感じる状況についての自由記載

7 名が「業務全般」と記述した一方で、そ

れを上回る 22 名が「あまり感じない・感じることがない」と回答していた。具体的状況が記載されたものの内容を見ると、上司や同僚からの評価は少なく、「住民から感謝された」「支援により住民の問題が解決に進んだ」「住民とともに活動した」等の住民との直接的な関わりやそれに付随する状況が多くを占めていた。

以上より、先行研究と比較して K6、UWES-J とともに得点が高いことから、市町村保健師の仕事意欲は高いものの精神的健康は不良であるといえる。このため、早急に改善のための対策をとることが必要である。精神的健康や仕事意欲には【保健師活動が尊重される職場風土】や【直接的関わりにおける活動意義の認識】が関連していたことから、保健師活動について共有できる場の設定や他職種からも保健師業務について理解が得られるよう保健師活動を可視化していくこと、直接的支援を行う活動時間の確保が必要である。

文献検討および自由記載の結果より、市町村保健師が「社会とのつながり」を感じる状況をみると、住民との直接的な関わりの中で「社会とのつながり」を感じていることが特徴的であった。また、直接的関わりは仕事意欲とも関連していた。住民への直接的支援を希望しているが故に住民に身近なサービスを提供する市町村保健師の職に就いた者が多いと考えられ、直接的な関わりがあることが仕事意欲に良い影響を及ぼすと考えられる。

しかし、市町村保健師を取り巻く現状をみると、業務の委託化など住民への直接的支援は今後も減少することが予測される。本調査の自由記載でも、「社会とのつながりを感じない」と回答した者がいたが、この背景にはこのような直接的支援の減少があると考えられる。直接的支援から社会とのつながりを感じるということが困難となっていく可能性があるため、業務を整理して家庭訪問や地区活動といった直接的支援の場を確保すること、また直接的支援のみならず間接的支援においても「社会とのつながり」を感じられる工夫や仕掛け作りが必要である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表](計 2 件)

齋藤尚子、櫻井しのぶ・市町村保健師の精神的健康と意欲を高める職場の検討 - 社会とのつながりに着目して -、第 18 回日本地域看護学会学術集会、2015 年 8 月発表予定、神奈川県横浜市

齋藤尚子・行政保健師が「社会とのつながり」を感じる状況 - 保健師向け雑誌からの検討 -、第 2 回日本公衆衛生看護学会学術集会、2014 年 1 月 12 日、神奈川

県小田原市

6. 研究組織

(1) 研究代表者

齋藤 尚子 (SAITO, Naoko)

順天堂大学・医療看護学部・助教

研究者番号：90621730

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし